は提案できませんか。イスズミ捕る、ガンガゼ捕る、そういったツアーを提案してみませんか。地元の人と一緒にやってもらえませんか。そういったのも一つの方法じゃないかと考えます。

ただ駆除駆除で、交付金だけじゃなくて、そういったのも楽しさは、私は都会の人は満足できると思います。これは提案しておきますので、担当部長よろしく御検討ください。

以上で終わります。

○副議長（上野洋次郎君）　これで、長郷泰二君の質問は終わりました。

○副議長（上野洋次郎君）　昼食休憩とします。再開は午後１時ちょうどからとします。

午前11時40分休憩

午後１時00分再開

○副議長（上野洋次郎君）　再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　１５番、清風会の大浦でございます。９月の定例会一般質問、韓国の観光客の激減、これに伴う島内の混乱ぶり、そして議会の中で私含め三、四名の方が同じ課題で一般質問に立っております。私は、主に最後のほうになりますが、特に昨日、本日の市長の答弁の中で、私の質問と重複することについては極力省略し、そしてその中身について自席から再度いろいろ質問してみたいとかように思っております。

通告内容は、私はこの７月、８月に新聞紙上、そしてテレビ、韓国の観光客激減、特にこの対馬を中心にひどい落ち込みぶり、これが全国的に内容を出されまして、しかし片やこれをどうしようかというふうなことは、この９月の定例会の一般質問のいわゆる原稿の締め切りまで、あまり議題がないものですから、行政側のアクションもないものですから、このダメージ、激減したダメージ、どのくらいの数量があるか、そして行政はあるいは民間はこの災難をどのように受けとめて、どう動くか、ここを絞り込んで一般質問の内容としました。

先ほど言いますように、ほとんど重複しておるのは承知であります。そこは省略しまして、もし私が申し上げました内容につけ加える点があれば、市長のほうから答弁をいただいて、その後、私は今回対馬市と振興局合同でつくられました韓国人観光客激減に対する関係者会議、これは非常によく現地調査されて、本当のことが細部にわたって把握されておる。これを見て、これはそのとおりだとかように思っております。市長のほうには、この資料に基づきまして後に質問していきたいと思います。

以上、そういうことでございます。市長、よろしくお願いいたします。

○副議長（上野洋次郎君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　大浦議員の御質問にお答えいたします。

大浦議員のほうからも話がありましたように、韓国人観光客の激減に関する状況は、これまで一般質問で回答した内容と重複いたしますので、省略をさせていただきます。

対馬の韓国人観光客が激減したことによる最近の雇用の状況について、対馬公共職業安定所からの報告によりますと、宿泊業で７月に５名、８月に６名の離職、運輸業で７月に１名、８月に１４名、９月にも既に１名の離職があり、その他の業種と合わせて２９名の離職があっているとのことであります。現在、対馬市内は人材不足が深刻な状況となっております。このような人材が対馬市内での再就職ではなく、福岡市等都市圏へ流出しないかと非常に心配をしているところであります。

また、対馬市商工会、対馬観光物産協会が８月下旬に実施したアンケート結果によりますと、韓国人観光客が減少したことに対する影響はという問いに対して、かなりマイナスと回答した割合が２４．２％、多少マイナスと回答した割合が１４．８％でありました。合わせて３９％が影響があると回答したことになります。逆にほとんど影響がないと回答した割合は、建設業など観光業とあまり関係がない業種も含まれますが、５５％でありました。

次に、どれくらい続くと経営に深刻な影響が出るかという問いに対しては、現在出ているが１７．９％、３カ月以内が８．５％、３カ月から１年以内が１１．９％となっています。同じく、影響なしと回答した割合は５０．２％でした。しかしながら、現在、影響が出ていない業種につきましても、物流の量が減少し、毎日の消費額が減っていますので、目に見えない形でゆっくりと影響が及んでくるのではないかと危惧をしているところでございます。

これまでの答弁でも申し上げましたとおり、現在は韓国内でどのようなアクション、アプローチも無意味であると、韓国の関係者が異口同音に申しております。このため、交流事業は継続しながらも各種プロモーション事業は自粛をしている状況でありまして、現在は国内観光客の誘致に全力を注ぐことが賢明だと判断しております。また、あまり報道はされておりませんが、韓国内は反日一色という状況ではございません。日本に好意を持っていても、今は社会の雰囲気に気を使って我慢している。日韓関係の修復を祈る国民も大勢いるということなのではないかと思っております。

このような韓国内における韓国人みずからの動きや活動に問題解決の糸口が見つかるかもしれず、今後も韓国内の情勢にアンテナを張り、情報収集に努めながら時期を見極めて、適時にキャンペーン等を実施し、加速的に客数が戻るよう対応したいと考えております。

また、これまで申し上げましたとおり、韓国一辺倒のインバウンド政策は、またいつこのような状況に陥るかわかりません。国内観光客の誘致強化にあわせ、台湾や中国、英語圏など、別の国への観光客誘致活動も開始していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○副議長（上野洋次郎君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　私は、一般質問を提出し、その後、対馬の実態を厳原地区、美津島、そして上対馬地区、３カ所を回りまして、どれだけの方がどの業種がどれだけの被害を、被害といいますか、ダメージを受けたか、これを把握することと、そして行政サイドの対応がどうなっておるか、そこらを中心に実態を把握いたしました。その一こまを申し上げます。

実は、市から出しておる関係者会議の資料から申し上げますけども、やはり３カ月近く経営がストップした方、おられます。そうしますと、６月の中旬まで順調な営業です。ところがお客がぱったりということでとまったわけですが、このことに対するいわゆる資金繰りの対応、資料として県の中小企業者向け融資制度、この中に環境変化対策として緊急資金繰り支援資金ということでございますが、３，０００万円、ここについて金融機関が貸し出しをするというふうな中で、現地の皆様に話を聞いてみたら、ある程度経営が継続した場合には、それだけの財蓄、余剰金もございますが、何しろ出鼻を、昨年仕事を始めた。ことしちょうど始めた。というような方が結構おられまして、これが融資の対象としてその裏づけが果たしてうまくいくかどうかは非常に自分も心配であると。

このことについて、いずれにしろはっきりしますが、もしもこれに金融機関にオーケーのサインが出ない場合、私たちはどうすりゃいいんだろうと。このような声を今から一週間前、聞いたわけですが、市長、このことにつきまして、金融機関のことについては発言はしにくいでしょうが、そういう方もおられる中で、もし耳にしておられたり、そういうようなことを予期されておられれば、答弁をまずお願いしたいと思います。

○副議長（上野洋次郎君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　まず、この９月４日でしたか、関係者を集めた緊急会議の中で、この融資につきましてちょうど金融機関の方々も見えられておりましたので、私のほうからこのような緊急的な状況の中で、金融機関としてそういった申し込みがあった場合に、そこら辺の考慮はしていただけるのかといったような、ちょっと質問もさせていただきました。

その際に、金融機関のほうとしてはケース・バイ・ケースみたいなそんな話もございましたけど、今後対応を検討していくというような回答をいただいたところでございます。それにあわせて今現在市のほうといたしましても、県の中小企業向け融資関係とはまた別に、市のほうの融資関係もございますので、こちらのほうにつきましてももう少し枠等が拡大ができないかということもあわせまして、金融機関等とも今相談をしようということで現在、部内でも協議を進めているところであります。

○副議長（上野洋次郎君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　非常に興味のあるところでありまして、今の市単独というか、市がそういうふうな緊急性を用いるということでございますが、具体的には県は３，０００万の上限で１．３％ですね、金利が年に。市は例えば上限ぐらいの枠は設定しておれば、できれば聞きたいと思います。非常に皆さん、このことを待ち望んでおります。いかがでしょうか。概要でも結構ですが、上限でも教えてください。

○副議長（上野洋次郎君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　市のほうの対馬市の中小企業向けの融資制度といったことで、今現在は限度額が８００万円となっております。利率が１．８％ということになっておりますけども、ここら辺を今金融機関のほうと、この枠がどうかしてもう少し拡大することができないか、そしてまた利率についてもこれ金融機関との関係でございますけども、もう少しこれが下げることが可能なのか、どうなのかということを御相談をちょっと申し上げたいということで、金融機関のほうと相談してくださいということで今、指示をしているところでございます。

○副議長（上野洋次郎君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　ひとつ拡大をよろしく検討していただきたいと思います。会議資料の中に、これは４ページなんですが、非常にまとめた書き方を上手にされております。

これを読み上げますと、平成２７年には２０万人、平成３０年で４１万人を突破して云々とあります。次に、対馬北部の比田勝港、南部の厳原港を窓口に国際航路を６社が運営しておると、今までですね。平成３０年には比田勝港から３１万人、厳原港で９万人の韓国人観光客が入国している。

次に、特に大事なことなんですが、特に韓国釜山から片道１時間１０分で着く比田勝港の入国者は平成２４年に比べ、平成３０年では約４倍増加しており、比田勝地域では民泊施設、飲食店、カフェ、体験施設など、受け入れ態勢が急激に整備され、インバウンド事業による恩恵により、雇用も生まれるなど物、人の流れが加速化、今年９月には大型ホテルも開業を予定している。

私は、この２日半、３日足らずですが、上の地区の比田勝の港、ここで実態調査をしておりましたら、今申し上げたことの内容どおり、ある集団組織と出会いました。もちろん、その方々は民宿、バス、大型バス、レンタカー、飲食店、その他いろいろ約１０名の方が組織を組まれておりました。その中には、九州本土からわざわざ比田勝の港に全てを、人生をかけるということで業種を、要は飲食業、そして着物、着つけ業といいますか、言葉では違うと思うんですけども、そのような方が沖縄から来てみたり、福岡から来てみたり、そして出鼻です。事業投資を全ての財産を打ち込んでことをして、この比田勝の港に生き抜いて、対馬に骨をうずめる。かような思いである方々たち、６月の中まではまともな経営で順調にいっていた。しかし、これがぱったりこうなったことを非常に残念至極でございます。

ここらのことを、私はきょうは述べてみたい、かように思うて、市長に聞いていただきたいことがあります。今まで、振興局、市、それから県知事、この日韓の問題があまりにも重いものですから、簡単に動かし切らないというふうな判断のものとに、国内対策をどうしようかというふうなことが聞いとる範囲では全てでございます。

私は、少々違う理論を持っております。それと、上対馬の皆様も同様な思いでございました。ちょっと聞いてほしいんですが、今回の日本政府対韓国政府の対立によるものが、対馬の観光業者にとって大迷惑だ。政府の責任は非常に重い。行政の行動は国への指摘がない。

次に、事業を進め、安定した経営に邁進しているものが、いきなりキャンセル、収入がゼロ、あまりにもひどい現状である。このままで済まされる問題ではない。まず第一に、現状の救済措置、次に政権与党、もしくは政府、対馬の現地に窮地に立たされた方々の実態把握のため、調査団を呼び込むことが必要であります。国に対する抗議と生活の保障、また今後２国間のトップでの話し合いがなされ、難題を解決し、従来の姿に戻していく希望を持っております。

私がここで言いたいのは、政府の責任というのを、捉え方がいろいろあろうと思うんです。徴用工問題に発して、その後、この会議資料をよく見てみますと、７月６日前後に、これは経済産業省のほうが貿易の輸出の管理の規制を強化した。ここから韓国の、要は電子機器産業が不景気にさらに落ち込み、そしてフッ化水素等の原料の調達ができにくくなったと。対前月比８３％の減ということで、生産がそれだけできておらない。できなかった。さらに不況に追い込んだ。この中から、日本に対する報復措置がじわじわ出て、要は不買運動、その他もろもろ、このような捉え方をしておるわけですが、先ほど言いますような団体１０名等における考え方、これについて市長、それは極端な私は物の言い方だと思いますが、これをどう理解されるか、ちょっと御意見を聞きたいと思います。

○副議長（上野洋次郎君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　私は今、大浦議員の質問でございますけど、何か今のところちょっとよく理解が、質問の趣旨の理解ができませんでした。要は、私たちも実は恐らく同じ会の方たちじゃないかなと思いますけども、この９月の１０日に一緒に意見交換会といったことでお話を聞いてまいりました。

確かに、議員おっしゃられるように、大変皆さん危機感を持った中でのお話でもありましたし、もうあすにでもちょっと危ないよというような方もいらっしゃいましたことは事実でございます。ただし、もう少し自分たちもこういう機会に頑張ろうじゃないかといったような、前向きな発言をされた方もいらっしゃいました。

そういうことで、我々といたしましては、今政府間がこのような形で争うことになっておりまして、ここに市からはまずこの韓国の観光客に代わる国内の観光客を誘致することが、今現在で

きる最善の策であるというような考えのもと、長崎県とともに国のほうへその話を、要望を上げているところでございます。そういうことでありまして、決してこの韓国人観光客の呼び込みを諦めているわけじゃございませんけども、今できることが最善の策という気持ちで進めているところでございます。

○副議長（上野洋次郎君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　私の言っておる話で、そしてまた皆さんの御意見も含めて、こういうことです。日本政府に今の結果としてのことを黙認することは、それでいいのかという言い方ですよ。私は、私というよりは皆さんの意見は、それはそれとして政府のやったことなのだから、その後のことをきっちり対応してくださいよ、責任持ってくださいよという言い方をされていますよ。私もそうだと思います。そこらあたりをもう少し、例えば上京してお願いしますじゃなくて、政府また政権与党の皆さんの中で、一つ調査団をつくって一番厳しい対馬の現状をきっちり調査して政府に持ち帰る。そして、今はそうだけども、長期的にはこれを長引かせれば必ず事が大きく落ち込んでいくというようなことも、私は一つの戦略としてそういうふうな形をつくるべきであろうと思っています。

それと、この皆様方は今後の展開が期待どおりにいかん場合は、自分たちで一つ突破してみたいというまでも話をしておられました。しかし、それが集中的なことで進めな、私はいかんと思いますので、とりあえずそういう方々もおられるというふうな認識の中で、私の言う話は今の政府にそのことをきっちりわかってもらわないかんと、この実態を。それを、黙っていいのかという言い方でありまして、誤解があったらそういう意味でございますので。

あれをせよ、これをするなということは越権ですから言いませんが、そこのところを一つしっかり責任持ってくださいというふうなことでございますので、私は調査団を対馬に早急に呼ぶことも、それを持ち帰ってもらうことも、手段だと思います。いかがでしょうか、市長、その点。

○副議長（上野洋次郎君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　申しわけございませんでした。今の現状の報告ということで、これまでにまず９月の６日に私も一緒に長崎県の副知事と同行して上京する予定にしておりましたけども、まず副知事のほうだけが国のほうに出向かれました。そして、議員皆さま御存じのとおり、きのうは長崎県の副知事、そして対馬市の議長、そして副市長がまず九州国会議員の会、五十数名いらっしゃるそうでありますけども、ここに今対馬の置かれている現状を報告をいたしまして、いち早く解決する方向でお願いをしたいということで、要望をしておられます。

その後、また関係省庁のほうにも出向いてきたという報告がございました。その後、長崎県選出の地方創生大臣、今度は北村先生でしょうか、北村先生のところにも出向きまして、その旨お願いをしてきたという報告があってございます。

その際、その際と申しますのが、要は九州国会議員の緊急総会の際に、九州国会議員の先生方がこうなれば、みんなでぜひまず対馬に行こうじゃないかというようなことをおっしゃってくださったということでございました。そういうことで、まず近いうちに、この先生方も対馬にお見えになろうかというふうに思っておりますし、我々も機会あるたびにこのような状況を国に調査して対策を早急に立ててもらうためにも、ぜひとも派遣もお願いもしてまいりたいというふうに考えております。

○副議長（上野洋次郎君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　非常に方向としていい話だと私は理解いたします。それと、私、現地で思ったんですが、比田勝港という港が韓国の釜山にいかに近くて、非常に対馬という場所に接点を置いた韓国の観光展開が自然体で、非常に安定した状況である。そこに皆さんが集まって、この港町で生活をして骨をうずめると、そのくらいの心意気の中で皆さんはあられます。ですから、倒れるようなことじゃいかんからひとつ頼むよと、救済措置が。

そして、日本人の観光客の流入もいいでしょうけども、比田勝港はどんな町か、非常に元に戻せば相当なやはり産業が成り立つ、仕掛けるこのような場所だと私思います。そういう中で皆さんが固まっておりますので、長い間この状態を続けずに、そして地元の声をぶつける。政治にぶつける。これをとめることなく私は思いっきりやらせるべきだと思います。

市長、その１０名の方のお話が９月の１０日にあったんでしょう。会議が。その後も、やっぱり動きますから世の中が。意見をひとつ担当部署を含めまして、よくよく状況の把握をされながら、意見交換しながらまとめ上げて何とかこの急場をしのぐことについて、ひとつ勢力を上げていただきたい、かように思っております。とりあえず、県の融資の問題と市の対応の金額を足した中で、何とかこの急場をしのいで、片や日本の観光客が、この比田勝港に十分満たすことができるかというのは保障できません。お互いに。

どっちか言えば、厳原港のほうに中心になりやすい日本人観光客、しかし何とか長期にならず半年前後でことをまとめるような勢いで、アタックをしていくような国への働きかけ、ここらを一つ、知事と一緒に連携をとりながら、そういうふうな考えにあってほしい、このようなことを皆様が待っております。ひとつ倒れてはいかんと。その辺につきまして御答弁があればお願いします。

○副議長（上野洋次郎君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　この観光客の激減関係に関しましては、先ほども申しましたように、今すぐできることは国内観光客をまず呼び込むことだというようなことで、今後も進める予定としておりますが、そしてまたいろんなところで助言をいただくわけでございますけども、これまでも韓国の観光客の呼び込みについては、福島の原発のとき、そしてまた教科書問題のときと、そ

ういうことでその時々でやはり影響が出てきたということで、これまでの韓国人の観光客一辺倒だけではなくて、やはりその他の外国の方のインバウンド対策も必要であると思いますし、この国内観光客の誘致にももう少し力を入れるべきだというような助言もいただいているところでございます。

そういうことで、決してこの韓国人観光客を呼び込むことをやめるというようなわけじゃございませんけども、韓国人観光客の誘致につきましてはできるだけチャンスを見ながら、素早く対応をしてまいると同時に、この国内観光客の誘致にも力を入れてまいりたいということでございます。

○副議長（上野洋次郎君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　そのようなことで、ついでに耳に入れてほしいですが、日韓のことなんですが、２０１７年の実績ですが、約７１４万人が日本に来ております。北海道から東京、大阪、京都、そして福岡、ハウステンボス、大分、温泉ですね。宮崎、そして対馬、この観光協会、先ほど言いましたその連携もとって、日本国政府のいわゆるこの実態を私は連携を組んでやることも一つの手段と思います。その先導を切るのが、対馬の皆さんの思いを対馬観光協会あたりが、長崎県でも結構ですが、そういう先導を切っていただきたい。それだけの大きな数字があります。

先ほど市長が言いますように国民は、韓国民は日本を全てそういうふうに、今の状況で思っておらんということはテレビ等であっていました。半分近く行ってもいいという思いがあるけども、それをとめられた状態ですね。何とかして、そこをやっぱり長引かせずにやっていくということを、ひとつ国に動かすということが私は一つの手段だと思っています。

そこら、最後になりますけども、国へのやはり働きかけについて地元が直接訴えたいというようなことについてあります。そこらあたり、また話を市長、聞いていただけませんか。それだけのことをおっしゃっていました。もう自分たちが旅費を持っていくぞと。それは力を合わせないかん問題ですから、一回再度中に入ってください、それだけの動きをしようとしていましたから、それを報告を一回しとかないかんなと思っておりました。もしあれば、なければいいですが。

○副議長（上野洋次郎君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　ありがとうございます。実は、この２０日の日にも再度今度は厳原のほうで、同じように関係者の皆様一堂に寄っていただいて、その対策会議を開く計画でありますので、またその際にいろんな方面からの話をお聞きして、国のほうにもその話を上げていきたいというふうに考えております。

以上です。

○副議長（上野洋次郎君）　１５番、大浦孝司君。

○議員（１５番　大浦　孝司君）　最後になります。この皆さんのことを先ほど申し上げましたが、自分たちはこれにかけた人生を失えば、この島におられなくなるという言い方をされました。それだけこの島で残りたいということも言われました。ここのところを一つ、腹をくくってこの問題にかかってください。これは私からの思いを伝えるこの場であります。

以上で、質問を終わります。

○副議長（上野洋次郎君）　これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

○副議長（上野洋次郎君）　暫時休憩します。再開は２時からとします。

午後１時41分休憩

午後１時58分再開

○副議長（上野洋次郎君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。１２番、波田政和君。

○議員（１２番　波田　政和君）　皆様、大変お疲れさまでございます。会派つしま、１２番議員の波田政和でございます。

近日の異常気象により、本市でも過去まれに見る大雨が発生し、五十年に一度と言われる記録的な集中豪雨に見舞われました対馬市内においても各地で河川が氾濫し、家屋の浸水や、農地、道路の冠水、山林の土砂崩れ等、甚大な被害を受けました。被害に遭われた市民の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

また、大変な暑さの中、その対応に当たっていただきました行政機関の方々皆様、被害関係者の皆様、また一般ボランティア活動に参加していただきました市民の皆様に改めて感謝とお礼を申し上げ、被害を受けられました市民皆様が一日でも早く通常の生活が取り戻せますよう、心から願うものであります。

それでは、通告しておりましたとおり質問に入らさせていただきます。

まず、１点目の各消防署における救急体制についてですが、今回は救急要請入電から現場到着までについてお尋ねをします。

日ごろより各消防署または消防職員の皆様におかれましては、市民の生命、財産を守る立場から日々努力をされ、また昼夜を問わず迅速かつ的確に職務を遂行されていることに対し、感謝を申し上げる次第であります。そのような多忙な業務の中、この救急業務に関してさらに市民の皆様へ安心していただけるよう研究を重ねていくことも我々の役割であると思っております。

この救急搬送については、平成３０年の９月議会においても入電から病院搬送までの平均所要時間など、若干のお話をさせていただいておりましたが、ここ近日、市民の方々から救急要請に